

女性への差別をなくそうと訴える横断幕を持って歩く女性グループのメンバー。マイクを持つのが元研修生のヒマさん。ネパール、バルディア郡にて。(2017年)



アジア保健研修所(AHI)

クリスマス・お正月募金のお願い

ご支援くださるみなさまへ

昨年初頭からのコロナ禍に加え、今年も災害が各地で起こりました。被害にあわれた方々に、心からお見舞い申し上げます。

困難が募る一方で、インターネットにより、人と人がつながる新しい可能性が生まれたり、買い物に出られない家庭に食料を届けるなど人

びとの支え合いが強くなった面もあります。

AHIは今年6月～9月、計30日間のオンライン国際研修を実施しました。昨年7月からの準備を経て行なった初の試みでしたが、今後に生かせることの多い貴重な経験になりました。

今年4月・8月の機関誌「アジアの健康」でお伝えしたように、設立40年を経たAHIは、支援者のみなさまとビジョンやミッションを共に考え、

次の10年に向けての歩みを作っていきたいと考えています。これは、これまでの経験を踏まえ、組織を強くするための取り組みです。

みなさまの一層のご参加とご支援をお願い申し上げます。

公益財団法人 アジア保健研修所
理事長 斎藤 尚文

募金にご協力ください

AHIは、誰もが尊重され、健康に暮らせる社会を目指して行動する人を育てています。

目標額

1,500万円

期間

2021年 12月1日から
2022年 2月28日まで

送金方法

● 郵便局から

口座番号 00870-8-49688

加入者 公益財団法人アジア保健研修所

同封の払込用紙は手数料免除のものです。郵便局窓口でのみお使いいただけます(ATMは使用できません)。

● クレジットカードで

AHIのホームページ「クリスマス・お正月募金」からお入り下さい。(Syncable を利用しています)

● 銀行から

金融機関 三菱UFJ銀行 平針支店

口座番号 普通預金 0750764

名義 賛助会員口 公益財団法人アジア保健研修所

銀行から送金される場合は、連絡先が把握できないためお手数ですがご一報くださいますようお願いいたします。

税法上の優遇:当法人への寄付や会費は、税額控除、所得税・法人税、および相続税の控除の対象です。

公益財団法人
アジア保健研修所(AHI)

〒470-0111
愛知県日進市米野木町南山987-30
TEL 0561-73-1950
FAX 0561-73-1990
MAIL info@ahi-japan.jp
HP http://www.ahi-japan.jp

二重の壁に向かう ネパールのダリット女性として

カースト制度は、今なおインドをはじめとする南アジアの国々で見られる社会階層です。その階層からも排除された人たちは、社会の中で最も低く置かれ、長く差別を受けてきました。そのような中、自らを「ダリット」（押しつぶされた・抑圧されたという意味）と呼び、差別に対して声を上げてきた人たちがいます。

元研修生ヒマさんは、ダリットであることに加え、女性への壁に対しても向き合っています。ヒマさんから「二重の壁」との闘いを聞きました。

事務局長 林かくみ

**ネパールでもカースト制があるので
すね**

法律上、カーストによる差別は禁止されています。教育の機会も職業選択も、私たちダリットも他の人たちと違いはないはずですが、でも実際は、多くの場面で差別に直面します。結婚が最たるものかもしれませんが、今でも異なるカースト間の結婚は難しく、ましてやダリットがダリット以外の人と結婚することは社会的に大きな抵抗を受けます。

ネパールのダリットは、人口の12%と言われています。政府はダリットの状況改善のため、大学入学の特別枠や奨学金など優遇策を設けていますが、それらを活かすことができない人は限られています。家庭の貧しさ、勉強に適さない環境など、ダリットの子どもが高等教育に進むためには多くの障害があります。



す。優遇策はあっても、それを手にするには大きな壁があるので。ヒマさんの生い立ちを聞かせてください

私は、ネパール西部の小さな村で生まれ育ちました。両親は高等教育を受けてはいませんが、幸い自分の土地を持ち、米などを作っていました。

ダリットには許されていないことがいろいろありました。たとえば他の村人と同じヒンズー教徒なのに寺に入ることが許されません。

学校の先生は、「だからダリットはだめなんだ」としばしば口にしました。その度にとっても悲しい気持ちになりました。でも黙っていたりしませんでした。

15歳のとき、憲法では差別は禁止されていると知りました。そうであれば、差別をなくすよう闘うことができるのではないかと思いましたが、でももうひとつの壁が身近なところにもありました。

私には兄弟が2人、姉妹が5人います。姉たちが結婚していく中、私は大学に行きたいと父に頼みましたが、強く反対されました。息子に教育を受けさせたいと思っても、娘



ダリットの女性たちの会合で話すヒマさん

にはそう考えません。長い時間をかけてやっと認めてもらいました。最終的には、村で初めて大学に行く娘を誇りに思ってくれたようです。

大学に入ると、同じ意識を持つ人たちと出会い、差別された人たちが連帯することで変化を起こすことができるようになるようになりました。

卒業後、貧困層の支援に取り組むNGOに就職しました。そして8年前に、「フェミニスト・ダリット協会」に加わり、出身地のバルディア郡支部の責任者になりました。

活動について教えてください

その日の食べ物にも苦労するダリットの家庭もあります。そして、貧困は妻や子どもへの暴力につながります。家庭内暴力は、ダリット女性が抱える大きな問題のひとつです。

私の団体では、職業訓練や小規模な事業を始めるための貸付を行い、収入向上を支援しています。さらに、少人数のグループを作り、仲

間とともに自分たちの問題を解決していくよう促しています。そしてそれらのグループを集め、大きな声と力を作り出そうとしています。

残念ながら、共に女性差別と闘っている仲間にもダリットへの差別を感じます。また、ダリットの人権を守るために共に運動を進めている男性の中にも、女性に対する差別の意識があります。女性がトップに就くことは強く抵抗されるのです。「共に」を実現するのは、本当に難しいことです。

20年前私が差別と闘うと言いだしたとき、父は、百年経っても変わりつこないと言いました。その父が今、家族の大事な事柄を私に相談するようになりました。そして「おまえは娘でなく、私の息子だ」と言うのです。まだやっぱり息子なのですが…。

「変えることができる」と考えることから、変化は始まります。私はこれからも、たくさんの人たちにそう呼びかけていきます。

ヒマさん、
研修で学んだことは
何ですか？

国際研修から3年、
今の活動を聞きました。

AHIの研修で、差別、障がい、貧困といったさまざまな社会の課題に取り組む人たちと出会いました。それぞれ向き合う課題は違っても、誰もが権利を守られ、健康に暮らせる社会をめざしていると知りました。そして、それを実現するためには、多様な分野や立場の人たちが連携することが重要だと強く思いました。

帰国後、研修の報告をする中で、そのような連携を進める新しい形の活動をさっそくやってみようということになりました。地元の議員や学校の先生など地域のキーパーソンと思われる人たちに声をかけ、ダリット女性の代表を含め、15人くらいのグループを立ち上げました。そこでは、自分たちの地域のいろいろな問題を話し合い、解決にみんなで取り組みます。私が担当する郡内で、現在5つのグループが活動しています。

そのひとつでは、家庭内暴力について取り組むことになりました。そこで、問題の背景を探ることから始めました。仕事がない不当に低い賃金しかもらえないという夫の不満が暴力になって現れるとわかってきました。それを受けて、行政に対して、雇用の機会を得るための支援策を要望することにしました。このように、地域で様々な人たちが協力し問題を解決する動きが生まれています。

研修ではほかにも、それまでの活動に足りなかったことがわかりました。ひとつは、成果を生み出すためにどうすべきか、しっかり考えて計画を作ることです。もうひとつは、現状把握による裏付けを持ち、また政府の制度を把握した上で、主張や要求を行うことです。この二つをいつも頭に置き、実践するよう努めています。



ヒマ・クマリ・スナルさん

1982年生まれ。
フェミニスト・ダリット協会
所属。2018年AHI国際研
修に参加。
家族は、夫と息子1人。